

## 株主メモ

|                           |   |
|---------------------------|---|
| 事業年度                      | 毎年4月1日から翌年3月31日まで   |
| 定時株主総会                    | 毎年6月開催  |
| 基準日                       | 定時株主総会の議決権 3月31日<br>剰余金の配当 9月30日・3月31日  |
| 株主名簿管理人および<br>特別口座の口座管理機関 | 三井住友信託銀行株式会社<br>東京都千代田区丸の内一丁目4番1号   |
| 株主名簿管理人事務取扱場所             | 三井住友信託銀行株式会社<br>証券代行部<br>東京都千代田区丸の内一丁目4番1号                                    |
| 公告の方法                     | 下記ホームページに掲載する。<br><a href="https://www.nsg.co.jp/">https://www.nsg.co.jp/</a> |
| 会計監査人                     | EY新日本有限責任監査法人   |

ご住所変更などのお届出およびご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。  
証券会社の口座に当社の株式を預けられていない株主様の株式につきましては、下記の電話ご照会先までお問い合わせください。

## 単元未満株式をご所有の株主様へ

単元未満株式(最低取引単位に満たない1~99株の株式)をご所有の場合、当社に対して、  
(1)買取請求または(2)買増請求をすることができます。  
お手続きの詳細につきましては、一般口座ご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社までお問い合わせください。特別口座の株主様(証券会社の口座に当社の株式を預けられていない株主様)につきましては、下記の電話ご照会先までお問い合わせください。

|         |   |
|---------|---|
| 郵便物ご送付先 | 〒168-0063<br>東京都杉並区和泉二丁目8番4号<br>三井住友信託銀行株式会社<br>証券代行部 |
| 電話ご照会先  | 0120-782-031 (フリーダイヤル)                                |

### ホームページのご案内

当社グループのホームページでは、決算情報や最新プレスリリースなど、様々な情報を掲載しております。どうぞご利用ください。

<https://www.nsg.co.jp/>

日本語版



スマートフォンからは  
こちらのQRコードを  
お使いください



### 買取制度

株主様がご所有の単元未満株式について、当社に対して買取の請求をすることができる制度です。

### 買増制度

株主様が、当社に対して、ご所有の単元未満株式の数とあわせて1単元(100株)となる数の株式の買増の請求をすることができる制度です。

買取・買増制度の例(160株ご所有の場合)



## 株主の皆様へ

日本板硝子株式会社  
第154期 中間報告書

2019年4月1日 ~ 2019年9月30日

証券コード: 5202

表紙写真: 透過性と遮熱性に優れたOptiwhite™とSuncool™ Pro Tが使われているカーネギーメロン大学ビジネススクール(米国ペンシルベニア州)

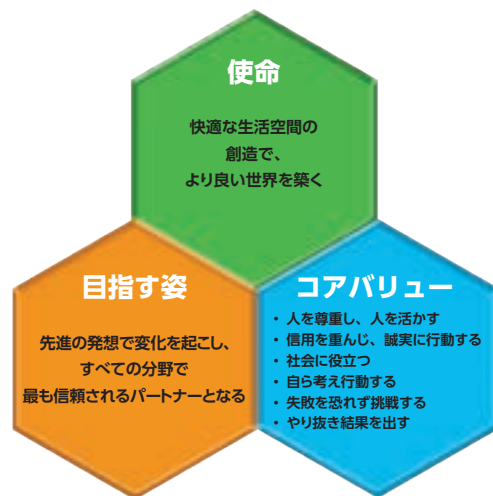
見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



## 目次

- 01 社長ごあいさつ
  - 05 トピックス
  - 07 特集1「NSGグループの技術・製品紹介」
  - 08 特集2「日本板硝子材料工学助成会40周年」
  - 09 会社概要・役員情報
  - 10 グローバルネットワーク・株式情報
- 裏表紙 株主メモ

## Our Vision



## ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。ここに当社グループの第154期中間期(2019年4月1日から2019年9月30日まで)の概況についてご報告申し上げます。

2019年11月

日本板硝子株式会社  
代表執行役社長兼CEO

森 重樹

## 第154期中間期の総括と下半期の見通し

当期上半期において、為替の変動に加え、当社グループの多くの地域で需要は弱含み、市場環境は厳しさを増しました。建築用ガラス事業では、太陽電池パネル用ガラスは堅調であるものの、一般建築用ガラスは欧米で市場環境が悪化しました。自動車用ガラス事業や高機能ガラス事業では、欧州、中国を中心とした自動車販売の減少の影響を受けました。

その結果、当中間期において、売上高は2,886億円(前年同期比6%減)、営業利益は149億円(同17%減)、親会社の所有者に帰属する四半期利益は19億円(同79%減)となりました。

下半期は、経済の先行き不透明感を背景に主要市場において減速の傾向が続くものとみています。当社グループとしては、VA\*製品の一層の拡販や効率改善、コスト削減等事業構造の変革に努力していく計画です。これらを基盤として、また太陽電池パネル用ガラスと新興市場での能力増強を目的とした戦略投資プロ

ジェクトの順次生産開始により、2021年3月期以降も業績改善に取り組んでまいります。

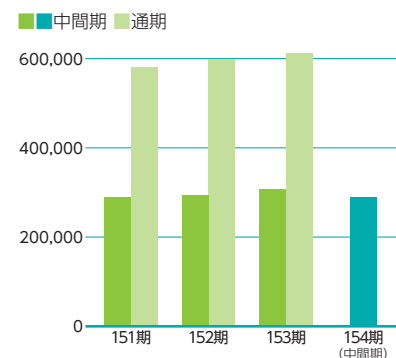
\* VAとは英語のValue-Addedの頭文字に由来し、「高付加価値」の意味

## MTPフェーズ2と中長期的な取り組み

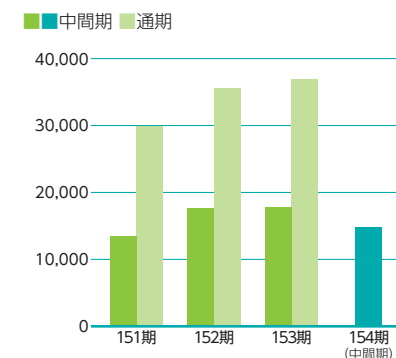
2020年3月期までの3年間を対象とした中期経営計画「MTPフェーズ2」では、「VAガラスカンパニーへの変革」及び「財務サステナビリティの確立」を目標とし、VA売上比率の上昇や営業利益率改善が進みました。財務面でも自己資本の改善を図るとともに、金融費用の削減や普通株の復配などを実現しました。

最終年度である当期は、一転して事業環境の厳しさにより業績は減速しておりますが、上半期においても引き続き強力でコスト削減活動を進め、一部の重点事業では改善への取り組みの効果が発現しました。また戦略投資プロジェクトも早期立ち上げに向けて順調に建設が進んでいます。これらの投資や自動車分野で受注が進むCASE\*に対応するVA製品が来期以降の業績

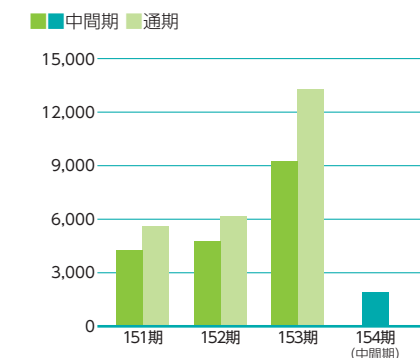
売上高 (単位:百万円)



営業利益 (単位:百万円)



親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益 (単位:百万円)



## 2020年3月期 成長ステージごとの取り組み

|      |  |
|------|--|
| 基盤事業 | <b>事業収益力の強化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● VA化加速、目標50%へ</li> <li>● 生産性改善、コスト構造</li> <li>● 重点取組み事業の収益改善</li> </ul>                      |
| 成長事業 | <b>成長機会開発</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 戦略投資案件の確実な立上げ</li> <li>● マーケティング機能の強化</li> <li>● R&amp;D体制の拡充</li> <li>● 新製品の上市、拡販</li> </ul> |
| 新規事業 | <b>新規事業育成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ビジネス・イノベーション・センター (BIC) 増強 実行フェーズに移行</li> </ul>   |

に貢献してくれるものと期待しています。

さらに昨年設立したビジネス・イノベーション・センター (BIC) の増強を図り、4月に販売を開始したPicoGene™を始め、新製品・新事業の開発を推進しており、中長期の成長に向けた布石も打っています。

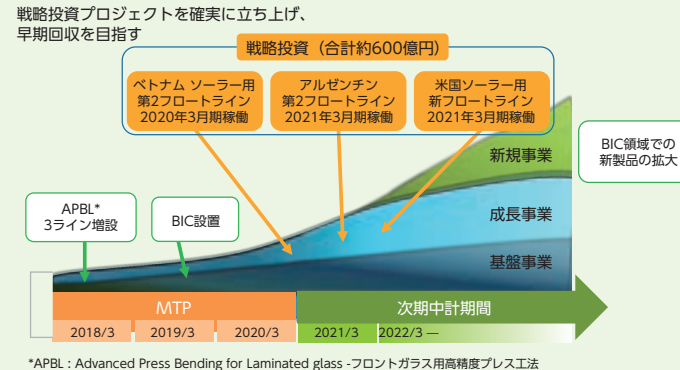
\* CASEIは、Connected (コネクテッド)、Autonomous (自動化)、Shared (カーシェアリング)、Electric (電動化) の頭文字をとった用語

## 企業価値の向上へ向けて - ESGへの不断の取り組み

当社グループは経営指針「Our Vision」において、「快適な生活空間の創造で、より良い世界を築く」を使命としています。これに基づき、長期的な企業価値の向上とともに、持続的成長可能な社会の実現に向けESG(環境・社会・ガバナンス)への取り組みを積極的に進めています。

コーポレートガバナンスはすべての事業活動の基盤であると考えています。本年は独立社外取締役の

## 成長事業への投資 強みのある、伸びる分野へ選択的な投資



1名増員により取締役会の過半数を独立社外取締役とし、また、役員報酬開示の拡充などに取り組みました。

環境分野では、スマートビル、ZEH(ゼロ・エネルギー・ハウス)・ZEB(ゼロ・エネルギー・ビルディング)、EV(電気自動車)等、社会の進化に対応した強みある製品の供給を通じて、環境貢献機会を追求したいと考えています。一方、自社工程からの温室効果ガスの排出については、2030年までに2018年対比で21%削減することを目指しています。この目標は本年10月にSBT\*イニシアティブに認定されており、工程改善など様々な目標達成への努力を行っています。

社会の分野では、より活力ある企業を目指してインクルージョン&ダイバーシティを推進し、国籍や性別の多様性の推進や障がい者雇用などに注力しています。

\* SBT (Science-based Targets) とは、科学的知見と整合した温室効果ガスの削減目標

## 強みのある製品を生かし環境貢献機会を追求

スマートビル、ZEH・ZEB、EV等社会の進化を支える  
多様なソリューションを提供

## 配当について

当社は、持続可能な事業の業績をベースにして、安定的に配当を実施することを利益配分の基本方針として、継続的な配当実施に努めています。2020年3月期については、当初予想通り期末配当金について、普通株式1株につき20円を予定しています。

株主の皆様におかれましては、引き続き当社グループへのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 連結損益計算書(要旨)

|                            | 第154期<br>(中間期)<br>(2019年4月1日～<br>2019年9月30日) | 第153期<br>(中間期)<br>(2018年4月1日～<br>2018年9月30日) |
|----------------------------|--|--|
| 売上高(百万円)                   | 288,625                                      | 308,143                                      |
| 営業利益(百万円)                  | 14,876                                       | 17,856                                       |
| 税引前四半期利益(百万円)              | 7,196  | 13,713                                       |
| 四半期利益(百万円)                 | 2,404  | 9,983  |
| 親会社の所有者に<br>帰属する四半期利益(百万円) | 1,908  | 9,261  |
| 基本的1株当たり<br>四半期利益(円)       | 3.12   | 90.16  |

## 連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

|           | 第154期<br>(中間期)<br>(2019年9月30日) | 第153期<br>(2019年3月31日) |
|-----------|--------------------------------|-----------------------|
| 非流動資産     | 536,563                        | 516,288               |
| 流動資産      | 240,149                        | 245,581               |
| 資産合計      | 776,712                        | 761,869               |
| 負債合計      | 674,620                        | 629,363               |
| 資本合計      | 102,092                        | 132,506               |
| 負債および資本合計 | 776,712                        | 761,869               |

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

|                       | 第154期<br>(中間期)<br>(2019年4月1日～<br>2019年9月30日) | 第153期<br>(中間期)<br>(2018年4月1日～<br>2018年9月30日) |
|-----------------------|--|--|
| 営業活動による<br>キャッシュ・フロー  | 1,377  | 3,092  |
| 投資活動による<br>キャッシュ・フロー  | △30,179                                      | △12,259                                      |
| (フリー・キャッシュ・フロー)       | △28,802                                      | △9,167                                       |
| 財務活動による<br>キャッシュ・フロー  | 23,364                                       | △1,385                                       |
| 現金および現金同等物の<br>四半期末残高 | 42,979                                       | 50,786                                       |

注: 当社は、第146期より国際会計基準(IFRS)に基づいて連結財務諸表を作成しています。  
上記の営業利益については、個別開示項目ベースの営業利益を記載しています。

## トピックス

### 西武鉄道新型特急Laview(ラビュー)客席窓に、世界初の高機能ガラスが採用

「いままでに見たことのない新しい車両」を目指して開発された「新型特急Laview(ラビュー)」(西武鉄道株式会社)の客席窓に世界初のメタシャイン®プリント高断熱ガラスが採用されました。

周りの風景にやわらかく溶け込む外観デザインで、縦1,350mm×横1,580mmの大型窓ガラスには、ガラスを原料とした光輝性顔料「メタシャイン®」が細かいドット柄にプリントされています。

さらに、遮音・赤外線カット膜を使用した強化合わせガラスと、NSG独自のオンラインコーティング技術によるLow-E(低放射膜)強化ガラスとの複層ガラスとすることにより、客室の静粛性と断熱性を高め、眺望を楽しみながら快適にくつろげる空間創りに貢献しました。



写真提供: 西武鉄道株式会社

### 建築用ガラス製品で国内初の「環境製品宣言」(EPD)を取得

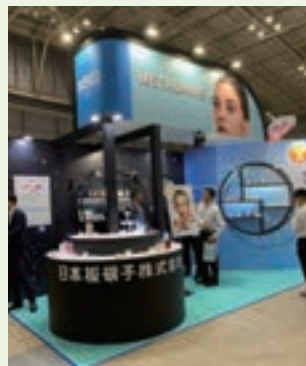
当社のフロート板ガラス、複層ガラス、合わせガラス及び強化ガラスが、建築用ガラス製品としては国内初の「環境製品宣言」(EPD: Environmental Product Declaration)を取得しました。このEPDは、ISO14025に基づき、製品のライフサイクルにおける環境負荷を数値化し、第三者機関より認証を受ける制度です。

米国における建築物の環境性能評価であるLEED認証では、このEPDを取得した製品の使用が評価項目になっており、今後、日本国内でも、建築物の環境性能向上の一環としてEPDを取得した材料へのニーズが増加することが予想されています。



### 日本最大級の化粧品産業技術展 CITE Japan 2019に出展

当社は、第9回化粧品産業技術展CITE Japan 2019(期間:2019年5月15日~17日 会場:パシフィコ横浜 延べ来場者数41,586名)に高機能ガラス製品を出展しました。CITE Japanは、日本最大級の化粧品原料・技術等の展示会で、世界的にも注目を集めています。当社ブースでは、ツヤ感・触感UPを特徴とする光輝材「シルキーフレイク®」や近赤外線反射機能を付与した「メタシャイン®」等の新技術を展示し、好評を博しました。



### 国内初ハイブリッド連節バス「いすゞ エルガデュオ」に 先進の当社ガラスが採用



写真提供: いすゞ自動車株式会社

国内初のハイブリッド連節バス「エルガデュオ」(いすゞ自動車株式会社)に当社ガラスが採用されました。エルガデュオは2台の車体を連結する連節バスで、大量輸送を可能にし、混雑解消、環境負荷低減やドライバー不足等の社会課題解決に貢献すると期待されています。

そのフロントガラスには先進の当社製3次元曲げ合わせガラスが採用されクリアな視界で安全な運転をサポートするとともに、側面の大型フラット強化ガラスにより、明るく開放的な車内環境を実現しています。

### イタリア名画の保護に当社Opti-Viewが貢献

イタリアのアンプロジアーナ美術館(ミラノ市)では、現在「ラファエロの『アテナイの学堂』の実物大下絵」が展示されています。この長さ8mを超える実物大下絵は、それ自体が高い芸術性を有すると評価されており、当社製低反射合わせガラス「Opti-View(オプティビュー)」で保護された世界最大級のショーケースに収められています。



©Piermario Ruggeri.

### 「統合報告書2019」を発行

統合報告書は、業績等の財務情報と非財務情報から構成され、中長期的な企業価値向上に向けた取り組みを一覧できるようにした総合的な報告書です。当社では、昨年より発行を開始し、今年発行の「統合報告書2019」では、「企業価値を支える基盤」の一環として「社外取締役ガバナンス対談」等を掲載しています。



統合報告書 2019



日本語リンク:

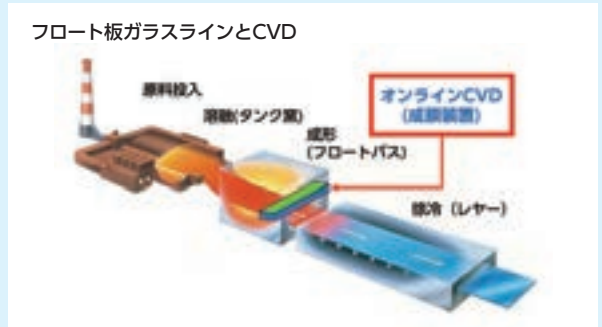
<https://www.nsg.co.jp/ja-jp/sustainability/reporting/integrated-reports>

## 1 ガラスの可能性を広げる透明導電膜付きガラス “NSG TEC™”

“NSG TEC™”は、ガラス表面に透明な金属膜をコーティングすることで導電性をもたせた「透明導電膜付きガラス」です。

NSG TEC™は、高い耐久性・耐薬品性等の優れた性能をもつ「電気を通すガラス」として、太陽電池パネルや建築、車両、医療、各種電子デバイスなど、様々な用途で採用が進んでいます。

NSG TEC™は、当社グループが独自に開発した“オンラインCVD法”により、ガラス製造工程にお



|  |  |  |
|--|--|--|
| <p><b>製品の特長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 表面電気抵抗は数種類あり、さまざまな用途に対応</li> <li>● 高温で熱反応成膜された耐久性のある膜で、通常のガラスと同様の取り扱いが可能</li> <li>● 強化・合わせ・曲げなどの加工(後処理)が可能</li> <li>● 多様なガラスの厚み</li> <li>● 赤外線を反射</li> <li>● 自然な色調で高い透過率を保持</li> <li>● 大面積が可能 など</li> </ul> | <p><b>主な用途</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 太陽電池用透明導電極</li> <li>● Electro chromic用透明電極</li> <li>● タッチパネル</li> <li>● アルカリバリア膜(TEC SB)</li> <li>● 発熱ガラス(冷蔵ショーケースなど)</li> <li>● オープンレンジ用前面ガラス など</li> </ul> |  |
|--|--|--|

**用語説明**

- TEC : Transparent Electrically Conductive glassの略で、Transparent=透明で、Electrically Conductive =電気を通すガラスのことです。
- CVD : CVD=Chemical Vapor Deposition(化学的気相成長)は、膜形成方法の一つで、この方法により高温で熱反応成膜された膜は、非常に高い耐久性を有しています。オンラインCVD法の開発につきましては、当社100周年記念サイト「人と技術の物語」Story6 “CVD 技術開発と薄膜型太陽電池への挑戦”で詳しくご紹介しています。<http://100th.nsg.co.jp/story/06/>

## 2 40周年を迎えた無機材料研究助成 ～日本板硝子材料工学助成会のご紹介～

本年3月、公益財団法人日本板硝子材料工学助成会は、創立40周年を迎えました。

同財団は、日本板硝子株式会社の創立60周年を記念して、1979年3月、「無機材料」に関する科学・技術の研究助成を行うことにより、学術・技術の進歩発達と関連産業の健全な発展に寄与することを目的にして設立されました。

設立当初は国内研究機関の無機材料に関する研究への助成からスタートし、1992年には国際貢献の一環として海外の研究に対する助成も開始しました。さらに、2006年からは、過去に同財団が助成した研究者がその研究成果を普及させる目的で行う研究集会開催や研究成果発表等に対し「成果普及助



成」も行うなど、その活動の幅を広げています。

同財団は、日本板硝子グループだけでなく、多くの企業や個人の皆様から多大なご賛同をいただき、この40年間に、1,287件の研究に対し総額16億64百万円の助成金を贈呈してきました。

助成テーマの選考に際しては、萌芽的な研究を重視し、各分野を代表される選考委員の先生方が厳正で公正な選抜を実施されています。助成対象分野は、主としてガラス、セラミックス、その他の無機材料全般ですが、近年の傾向としてナノ領域を制御することで従来にない機能発現を追求する研究テーマも増加しており、これからも、これらの分野で新たな研究成果の誕生に貢献していくことが期待されています。

同財団ホームページ

<http://nsg-zaidan.or.jp/index.html>

| 概要    |                                |                    |
|-------|--------------------------------|--------------------|
| 設立    | 1979年3月26日                     |                    |
| 管轄官庁  | 内閣府                            |                    |
| 資産    | 11.9億円(基本財産9.2億円)(2019年3月末日現在) |                    |
| 運営    | 有識者で構成される評議員会、理事会及び監事によって運営    |                    |
| 沿革    |                                |                    |
| 1979年 | 3月                             | 財団法人日本板硝子材料工学助成会設立 |
| 1979年 | 6月                             | 第1回贈呈式             |
| 1980年 | 3月                             | 試験研究法人等認可          |
| 1988年 | 8月                             | 特定公益増進法人認可         |
| 2009年 | 12月                            | 公益財団法人移行           |
| 2019年 | 3月                             | 創立40周年             |



## 会社概要 (2019年9月30日現在)

|    |   |          |   |
|----|---|----------|---|
| 商号 | 日本板硝子株式会社   | 設立       | 1918年11月22日   |
| 本店 | 〒108-6321<br>東京都港区三田三丁目5番27号<br>(住友不動産三田ツインビル西館)<br>TEL: 03-5443-9500 | 従業員数(連結) | 26,873 人  |
|    |   | 資本金      | 116,591 百万円   |
|    |   | 上場証券取引所  | 東京 (証券コード: 5202)  |
|    |   | お問い合わせ   | <a href="https://www.nsg.co.jp/ja-jp/contact-us">https://www.nsg.co.jp/ja-jp/contact-us</a> |

## 役員 (2019年9月30日現在)

当社は、指名委員会等設置会社制度を採用しています。

### 取締役

|                 |               |       |       |       |
|-----------------|---------------|-------|-------|-------|
| 社外取締役<br>取締役会議長 | ギンター・ツォーン     | 指名委員  | 監査委員  | 報酬委員  |
| 社外取締役           | 山崎敏邦          | 指名委員  | 監査委員長 | 報酬委員  |
| 社外取締役           | 木本泰行          | 指名委員  | 監査委員  | 報酬委員長 |
| 社外取締役           | 松崎正年          | 指名委員長 | 監査委員  | 報酬委員  |
| 社外取締役           | 竹井友二          |       |       | 報酬委員  |
| 社外取締役           | ヨーク・ラウパッハ・スミヤ |       |       | 報酬委員  |
| 取締役             | 森重樹           | 指名委員  |       | 報酬委員  |
| 取締役             | クレメンス・ミラー     |       |       |       |
| 取締役             | 諸岡賢一          |       |       |       |

### 執行役

|              |             |     |            |
|--------------|-------------|-----|------------|
| 代表執行役社長兼CEO  | 森重樹         | 執行役 | ティム・ボラス    |
| 代表執行役副社長兼COO | クレメンス・ミラー   | 執行役 | マイク・グリーンナル |
| 代表執行役副社長兼CFO | 諸岡賢一        | 執行役 | 岸本浩        |
| 執行役常務        | トニー・フラッジリー  | 執行役 | 小林史朗       |
| 執行役常務        | 日吉孝一        | 執行役 | ジョン・マーサー   |
| 執行役常務        | 石野聡         | 執行役 | 中島豊        |
| 執行役常務        | 西川宏         | 執行役 | イアン・スミス    |
| 執行役常務        | ヨヘン・セトルマイヤー | 執行役 | ミレナ・スタニッチ  |
| 執行役常務        | フィル・ウィルキンソン |     |            |

## グローバルネットワーク - 主要製造拠点 -

当社グループは世界各地に製造拠点をもち、その製品は世界100カ国以上で販売されています。

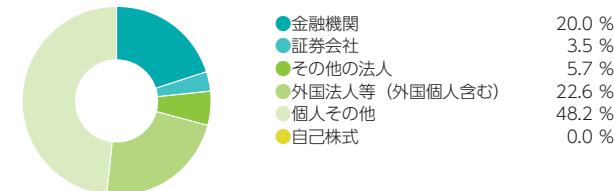


## 株式情報 (2019年9月30日現在)

### 株式の状況

|            |                    |
|------------|--------------------|
| 発行可能株式総数   | 177,500,000 株      |
| 発行可能種類株式総数 | 普通株式 177,500,000 株 |
|            | A種種類株式 40,000 株    |
| 発行済株式の総数   | 普通株式 90,603,899 株  |
|            | A種種類株式 30,000 株    |
| 株主数        | 普通株式 55,863 名      |
|            | A種種類株式 3 名         |

### 所有者別の持株比率(普通株式)



## 事業別連結売上高構成比

(2020年3月期第2四半期)

